

平成29年度第1回東庄町総合教育会議

1. 開催日時 平成29年9月27日
開会：午後1時30分 閉会：午後2時35分
2. 開催場所 東庄町役場 1階 会議室2
3. 議 題
(1) 放課後児童クラブについて
(2) 幼稚園の統合問題について
4. 出席者
東庄町長 岩田利雄
教育委員会
教育長 五十嵐正憲
教育長職務代理者 小林衛治
委員 向後元道
委員 林 英伸
委員 岩井利幸
説明員 健康福祉課長 海上孝、教育課長 多田克己
事務局 総務課長 向後喜一郎、総務課長補佐 堀江弘之
庶務係主任主事 河津 亮平
5. 傍聴者 4名
6. 議事の経過 別紙のとおり

向後総務課長 それでは、ただいまから東庄町総合教育会議を開催いたします。

次第に沿って進めさせていただきます。

町長挨拶。町長、お願いいたします。

岩田町長 それでは、会議に先立ちましてご挨拶を申し上げます。委員各位には、平成29年度第1回の総合教育会議ということでご参集をいただき、まことにありがとうございます。

本日は、放課後児童クラブの運営についてと幼稚園の統合問題について、二つの課題をテーマに意見交換をお願いしたいと考えております。どちらも平成32年度から町内五つの小学校が東庄町立東庄小学校として、現笹川小学校の位置に統合されることに関連のある課題となっております。皆様には町教育に関する課題として、有意義なご意見を賜りたくお願いを申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

ご苦労さまでございます。

向後総務課長 ありがとうございます。

続きまして、教育長挨拶。教育長、お願いいたします。

五十嵐教育長 それでは、今年度第1回となります総合教育会議に先立ちまして、教育長として一言ご挨拶申し上げます。

岩田町長には、現在の教育課題について、町長と教育委員がこのように話し合う機会を設けていただき、まことにありがとうございます。

今回の総合教育会議では、先ほど町長の挨拶の中でもありましたように、放課後児童クラブの運営についてと幼稚園の統合問題についてでございますが、どちらも子供たちの教育ということで、東庄町の子供たちの教育をどのようにしていくかということでは、大変大きな課題であると考えております。

教育委員会で検討したことを町長を交え、再度皆さんからこの総合教育会議でご意見をいただき、その方向性を見出していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

向後総務課長 ありがとうございます。

では議事に入ります。

議事進行は町長にお願いいたします。町長、よろしくお願いいたします。

岩田町長 それでは、議題の「放課後児童クラブの運営について」を議題といたします。

平成32年度から、町内5つの小学校が東庄町立東庄小学校として、現笹川小学校の位置に統合されることに伴いまして、放課後児童クラブの運営について、東庄町子ども・子育て会議において、検討いただき提言をいただきました。

提言書の内容につきましては、去る8月25日の教育委員協議会におきまして、健康福祉課長よりご説明したとおりでございます。

私は子供の健全育成、また子育て支援の観点から、平成32年度の小学校統合に向けてこの提言を尊重し、現笹川小学校の敷地内に、校舎とは別に適正な規模の施設を整備していきたいと考えております。

また、具体的な建設場所につきましては、教育委員会と協議をしながら決定をしてみたいと考えております。どうかよろしくお願いを申し上げます。

それでは、協議に移らせていただきます。

それでは、何かご意見等がございましたら、お願いしたいと思います。
向後委員 教育委員会協議会の中で、福祉課長よりご説明いただき、内容については十分ご理解いたしました。

町長のお話のとおり、小学校が、現笹川小学校の位置に統合されるわけですから、施設への移動手段を考えれば、国の補助等の対象となる敷地内、これから詳細な場所等はまた教育委員会のほうで、しっかり検討していかなければならないと思いますけれど、そこに建てることは私は望ましいと思っております。
岩田町長 はい、ありがとうございました。

ほかにございませんか。

はい、どうぞ、お願いします。

小林職務代理 ただいま、向後委員のほうからも話がありましたけれども、基本的には私も同じような考えです。

放課後児童クラブが、笹川小学校の敷地に集められるわけですね。非常に効率もいいし、移動手段も非常に短時間で済む。

放課後児童クラブは、笹川保育園が運営する「ゆめゆめクラブ」と東城分館で行っている「すぎのこクラブ」の2カ所に分かれておりますので、一つにまとまるということであれば、学校も笹川小学校に来ますので、便も非常によくなると思います。

ただ運営方法については、これから保育園等といろいろ交渉する面もあるかもしれませんが、そのような方向でやっていただければ、よろしいかと思えます。

以上です。

岩田町長 小林委員ありがとうございました。

まあ、いろいろご意見を伺っておりますけれども、当然敷地内ということになると限られた場所というようなことには、相なってくるかと思えます。その中で適正な規模、そしてまた具体的な面積等も、これから考えていかなければならないわけではありますが、そのあたりも含めて、運営等も含めてご協議を賜ればありがたいなと思っております。

また、今全体を見渡して、小学校に課題はあるんですね。というのは、現プールは唯一地下水で上げているプールであります。今適正かどうかということになってくると、ほかの学校はみんな水道水を使っております。笹川小

学校のプールだけは、薬で処理はしておりますけれども、地下水をそのまま使っている状況下であります。

ですから、あの場所のプールの問題があるとか、またそういうものの整備についてだとか、プールをどうするかということも含めて、またご協議いただければ、検討いただければありがたいなと思っているところでもあります。よろしくをお願いいたします。

五十嵐教育長 それでは、今町長のほうからその場所等についてのお話がございましたが、現在笹川小学校の児童クラブにつきましては、笹川小学校の多目的室とその隣の部屋を使って運営している状況です。ですから小学校としては、多目的室を自由に使うということになると、使いにくい状況があります。

ですから今、町長、あるいは委員の皆さんから出ましたように、新たな場所につくっていただくというようなことがいいのかなと思います。

そのときに今町長のほうから出た現在のプールの場所もその候補地の一つということで、お話があったのかなと思うわけです。

確かにプールについては昭和36年だったか7年だったかということで、大変古い施設であります。あのプールを統合後の新しい小学校でそのままというわけにはいかないと思います。

例えばあのプールの場所に、児童クラブの建物を建てるということであれば、当面の間は他の各小学校にあるプールの中の十分使えるプールを使用するにしても、やはり最終的には統合後の小学校に新たなプールとか、あるいは町全体として小学生だけが使うものではなくて、もっと町民の皆さんが使えるようなものを、近くに建てていただくとか、そのようなこともこれから先、考えていってみたいと思います。

ですから、敷地内に児童クラブの建物を建てていただくということと、その候補地としては現プールの場所というところもあるかもしれませんが、そのほかに公民館側の築山になっているところの端っこのほうに、今建物がどれだけの大きさになるかというのがちょっと課題ですけれども、その辺のところ十分検討した上で、適切な場所に建てていただきたいと考えております。

以上です。

岩田町長 今プールの話が出てきましたが、私はたまたま統廃合するという事の中で、プールのことが非常に問題になってきていると思っておりました。というのは、笹川小学校のプールは、つくられてから大分年数がたちます。先ほど申し上げました適正かどうかということも含めて、検討すべきことは十数年ぐらい前から話はしておりましたけれども、プールが整備されていない他の学校を優先してきましたので、そちらのほうの新しいプールをつくってまいりました。

特に橘小学校はまだつくられて間もないし、そういう意味においては、まだ町内でも統廃合しても使えるプールはたくさん残っております。ですから、笹川小学校のプールを思い切って撤去してしまって、子供たちは町内の小学校でまだ使える十分新しいプールを有効利用しながら、使うというような形の方法も、一理あるのではないのかなというような考え方をしておりました。

最近の傾向としては、学校内に子供たちのためのプールをつくるという発想から、小学生から中学生含めて、町民誰もが使えるプールというような形のニュアンスに大きく変わってきました。20年以上前には教育関連の公的な問題があって、一般の方は入れない、子供たちだけのプール、学校のプールということになりましたけれど、最近は町民プールの的なものをつくって、高齢者対応のリハビリの歩行訓練の場所になったり、また先生がスイミングの指導をするということではなくて、インストラクターを入れて、きちっとした指導をしていくというようなものを取り入れて、やっている傾向が非常に強くなっております。それから、最近の傾向として屋内型のプールという考え方もありますので、その辺も含めて十分協議をしていただければと思っているところであります。

これらのプールの件につきましても、児童クラブの建物は敷地内全体を見渡してどこがいいのか、どの場所にそれを建設すべきなのかということにつながると考えております。ですから、今何があるからどうだということじゃなくて、どういうところにつくることそのものが理想的なのかなということで、ご検討を賜ればありがたいなと思っているところであります。

いろいろご意見をいただきましたけれども、ここで放課後児童クラブの整備については、冒頭申し上げましたとおり現笹川小学校の敷地内に、校舎とは別につくるというようなニュアンスが非常に強いようであります。

そういうことで適正な規模を、そして施設を整備することといたしまして、具体的な建設場所につきましても、先ほどもご意見がいろいろありましたけれども、十分検討してまいりたいと考えております。

なお建設の時期でございますけれども、平成30年度中に設計に入りたいなと、そして32年2月までに完成をして、竣工させたいと考えておりますので、時期と照らし合わせて進行して協議をしていただければありがたいなと思っていますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。

それでは、1番目の議題につきましても、いろいろご意見を賜りました。これは要望書が出ておりますので、その辺を踏まえて提言等もいただいておりますので、その提言に基づいて十分検討を加えていただければありがたいなと思っていますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。

それでは、本日の議題の2に入ります。

幼稚園の統合問題についてを議題といたします。これは教育委員会より説明をお願いしたいと考えております。

はい、教育長。

五十嵐教育長 それでは東庄町の幼稚園の統合問題につきまして、教育委員会からの報告ということで話をさせていただきます。皆さんに資料がいつているかと思います。教育委員の皆さんはこれまでもこの資料を、何度かこの前の過程の資料等見たと思いますが、いま一度説明のほう聞いていただければと思います。

まず、現在の東庄町の幼稚園の現状でございますが、本町の幼稚園は、現在二つの幼稚園がございます。平成22年の4月に五つの幼稚園から、二つの幼稚園に統合して、現在に至っているところでございます。

その下に表がございますが、新入園児の推移でございます。29年度と30年度の間には2本線がありますが、29年度まではこれ実数ということでございます。30年度以降につきましては、下にありますように過去3年間の入園率の平均をもとに算出しております。なぜ入園率の平均が3年間なのかといいますと、26年と27年の間に大きな差がございます。26年まではおよそ60から70パーセント前後あったわけですが、27年、28年、29年は40パーセント台でございますし、50パーセントちょっとといったような入園の割合でございます。ですので、この27年以降の3年間の平均でやらせていただきました。

このように27年以降50パーセント前後になった理由といたしましては、下にも書いてありますが一つは両親がともに就労していることから、保育時間が8時半から午後2時までと短い幼稚園より、保育時間が長い保育園に預ける家庭がふえたということが、まず一つの大きな理由として考えられます。

また2番目の理由として、保育料が国の制度の変更によりまして、平成27年度から下げられました。保育料が下げられたということで、保育園のほうに行く子供がふえましたので、27年、28年、29年は50パーセント前後ということで、数が減ったわけでございます。

このようなことが理由として考えられます。そして東庄町の幼稚園の方向について、その下に書かれておりますが、それぞれの園の園児が今20人前後、20人弱というふうになっているこの状況でございますが、幼稚園教育の目的は集団生活を通して喜んでこれに参加する態度を養うとともに、家庭や身近な人への信頼感を深め、自主自立及び共同の精神、並びに規範意識の芽生えを養うことと、このように幼稚園教育の目的となっております。

特に幼稚園では遊びを通して、初めての集団でのルールを学ぶ、そのような時間が毎時間ございます。きょうはお絵かき、あるいはきょうはみんなで踊る、あるいははさみを使って、みんなで紙を切って遊ぶというふうに、みんな同じことを通して、それをお勉強ということで集団の中で学び、そしてその集団の中で友達関係や規範意識などを身につけていく、これが幼稚園教育でございます。

本町では、平成32年度に小学校が統合され一つになります。先ほど述べたように集団教育をするということを考えますと、人数が減ってくるとなかなかその教育効果も十分ではなくなるという心配がございます。

また先ほどから述べておりますように、小学校が統合されるということでございますので、二つの幼稚園を一つの幼稚園に統合することで、人数的な面も確保され、また幼小がともに一つずつとなるということで、これまで以上に強力な連携が図れるというようになるのではないかと考えております。

幼小の交流学習を行うことで、幼稚園の園児が小学生の先輩から学ぶことができるようになりますし、また小学生は幼い幼稚園児と接する機会がふえることで、思いやりの気持ちなどが芽生えるようになることが期待されます。

このように幼小の強力な連携を行って教育をしていくことで、集団生活の中で多様な経験をすることができ、生活をより豊かにして小学校教育につなげることができればと考えるわけでございます。

そのようなことで本町の子供たちのための教育が行われるというふうに考え、教育委員会の中でもさまざまな意見がございましたが、小学校統合と同じ平成32年度に二園の幼稚園を一園にするということが、よいのではないかとというような結論になりました。

先ほども申しましたが、幼稚園の問題については、教育委員の皆さん一人一人さまざまなお意見がございます。今日はそのような意見も、あるいは考えも聞いていただき、町長のお考えを含めて、幼稚園についての方向性を見出していいただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

岩田町長 ありがとうございます。

現状をつぶさに説明をいただきまして、ありがとうございました。

この数字を見ていると、27年あたりからぐっと下がってしまって、50パーセントぎりぎりないしはそれより下がったところもあるようであります。

先ほども説明の中にありましたが、この原因はということになると、やはり、長時間にわたって預けられる保育園に預けたほうが、自分たちの仕事もできるということではないのかなという思いがいたします。今、5時ないしは6時ぐらいまで、仕事で勤められる方が多いようでありますので、延長してその時間まで預かっていただける保育園のほうが預けやすいといいますが、預かっていただけることにありがたいといいますが、そういうような傾向が生まれてきたのかなというふうにも思っております。

そういう面も含めて、説明の中には小学校の統廃合にあわせて、今二園ある幼稚園を一園にというような話も出てきました。人数的なものを考えれば一園にしても十分やっていける状況下ではあります。しかしながらこの長時間の保育時間でありまして、これが可能かどうかという部分も含めて考えていかないと、同じ傾向にまたつながるのではないのかなという思いもいたします。

ですから、長時間預けられるのかどうかということも、今後幼稚園そのものの経営といたしますか、対応になってくるんだろうというように思っています。

その辺も含めて皆様方のご意見がございましたら、お願いします。

はい、どうぞ。

小林職務代理 今教育長、町長からもいろいろ説明がありましたが、もう一つの問題点はこの小学校を統廃合した場合に、橋小学校がなくなって橋幼稚園が畑の中の一軒家になっちゃいまして、防犯上の問題が非常に強いんですね。ですから、私個人としてもやっぱりあそこに一つだけぽつんと幼稚園を置いておくのもどうかなという感じもしますし、そういう面からもやはりこの小学校の統合とあわせて、やっぱり一つにするのが一番いいのかなという感じがしておるんですよ。

それともう一つ、町長のほうから今話ありましたが、延長の問題とかそういうものは、簡単には結論を出せませんけれども、幼稚園の入園率は50パーセントを今切ってきている状態で、やはりこれが20、30パーセントになった場合には、果たして今度は幼稚園の存続意義というのはどうなのかなということになりかねませんし、できるだけ今統合を検討した上で、私が一番問題と考えている橋幼稚園の防犯上の問題ですね、これをやっぱり考えてやるのが、一番必要なのかなというふうに感じています。

以上です。

岩田町長 ありがとうございます。

ほかには何かご意見がございましたら、はい、どうぞ。

向後委員 今教育長や小林職務代理のほうからお話があったとおり、橋幼稚園をそこに置いておくと、仮に統合して橋に持っていくということであっても、そこにぽつんとあることは非常に問題があるんじゃないかと思っております。

人数的なことを考えれば、笹川幼稚園に持ってくるしかないのかなと思いますが、そうであれば、当然一園、一小学校、今町長の話もありましたように、我々もこれから教育内容について十分議論していきながら、やっぱり幼稚園に行ってもよかったというような幼稚園をつくっていかなくてはいけないと思います。

それとともに、また当初幼稚園を二園にしたときに、本来であれば幼稚園は2時終了ですね、それを3時4時と延長しまして、3時までは送迎をする。それ以降の4時になった場合は、家庭でのお迎えをお願いしたいということになっていました。もちろんそれは継続していただきたいと思うんですけど、それをさらにもうちょっと時間的な問題とか検討して、何とかならないのかなというふうには思っておりますので、一つその辺も町長のほうの判断やご理解をひとつよろしくお願いしたいなと思っております。

岩田町長 ほかにございませんか。

今のお二人のお話を伺いましたところ、もう二園にするときにも十分検討を加えられて、最初から一つというのはちょっと抵抗もあるのではないのかなということの中で、多分二園制を取ったんだらうと思います。まあ教育委員会の皆さん方のいろいろな検討の中で、二園にしたということの経緯は聞いております。しかし先ほどもありましたように、学ぶ場所、それから遊ぶ場所というのを含めて、単独で一つの保育園、幼稚園を残すということになると、いろいろな不安的なものが出てきますし、やはり幼稚園と小学校、そしてまた関係する部分もあります。

実は先般、同じ日に行われました町内5個の運動会を見に行ったんですが、保育園に通っている子供たちとか、幼稚園に行っている子供たちの就学前、入学前の競技とか、遊戯だとかというのを見せていただきました。やはり幼稚園と保育園って違うんだなということが多少気がついたことがあります。というのは、やはり集団で生活する中で、個々の責任で何かいろいろなものを教えているんですね。例えばスタートするときスタートのちゃんと構えを取れるかどうか、レースが終わった後にちゃんと集まってそこにじっとしていられるかどうか、そういうものを見ておりましたら、やはり幼児教育の中でも保育園と幼稚園では違うんだなということがつぶさにわかりました。

ですから、小学校の年上の子供たちを見ることも、幼稚園に通う子供たちにも必要ならうと、人を習うということがありますから、そういう意味においては、ぽつとおかれるよりは目の前にある小学校、ときには小学校の中に入っている見たり、そして触れたりということもすぐできるわけでありませう。

同じ場所で学ぶということはずごく大事なことであって、一つずつぽつぽつとあるよりは、はるかに小学校の近辺にある方が良いと。町の幼稚園をつくったときに基本的な考え方があります。というのは、各小学校の隣に幼稚園をつくっていったんですね。

ぽつと離れたところに地域の幼稚園をつくっていったわけじゃなくて、必ず小学校のある場所隣に幼稚園をつくっていったということの経緯から考えれば、小学校が統廃合されるということになれば、一つになった小学校の隣に幼稚園があるべきだらうと、基本的な考え方で、町の考え方といえはそう思っております。

ですから、今言われたようなことも十分協議しながら、町としての考え方もまたきちっと出して、でき得れば同時にスタートさせてあげたいなという思いがいたしています。

まあ7年を経過して、幼稚園そのものの送迎とかそういう問題は全然ありませんでしたけれども、どうしても保育園と幼稚園の違いの中で、預けて長時間預かってくれるほうが、預けるほうの身になれば有利だし、またそこに行って指導、教育を受けるということになってくると、文科省と厚労省の違いですか

ら、はるかに文科省の指導の方が、きちっとした集団ということで子供たちをおきますので、まあ多少子供たちの違いが出てくるだろうと。また入学をもしたとしたら、三、四カ月はそれを体で覚えていくためにも、幾らかおくれは取るだろうというような思いがいたしました。

ですから、これからも子供たちと一緒に幼稚園に通ってもらって、なおかつ現場の可能な限り預かれる時間を延長したり、いろんな工夫も重ねながら、またできればいいなと私個人的には思っています。

ですから、その辺をご理解いただきながら今後進めてまいりたいなというふうに考えておりますので、どうか委員会の中でも十分協議をいただければありがたいなと思っておりますので、よろしく願いしたいと思えます。

今の問題につきましては、大体結論じみた部分が、方向が定まってはきております。あとは中身の問題でありますので、どうか十分ご協議を今後とも賜りたいなと思っておりますので、よろしく願いを申し上げたいと思えます。

次に、今日はフリーの形でいろんな意見を出してもらえればありがたいなと思っておりましたので、皆様方から今委員会含めて、また地域から聞こえてくる声も含めて、問題というようなことがあれば、どうかこの場でお話をいただければありがたいなと思っております。よろしく願いをしたいと思えます。

岩井委員そしてまた林委員にも、何かありましたらよろしく願いを申し上げます。

林委員 今町長から地域の問題というようなお話が出ました。そういった中で今議事二つの問題、放課後児童クラブと幼稚園の統合問題ということでお話をいただきまして、結論といたしましては今お話しただいて、また教育委員会としての結論は、幼稚園の統合については、笹川幼稚園の場所に一園にするというところで結論を見ておりますので、ただそういった中でやはりどうしてもその地域とのつながりが、各笹川地域以外の子供たち、あるいは大人のつながり、あるいは子供たちがいない方たちと、その子供を持つ親、あるいは児童たちとどのようにかかわっていくのかというところが、やっぱり今後問題として突き詰めていかなければいけないと。今町長がおっしゃったように最初に幼稚園設立したときには、各小学校の隣にと、これやっぱり幼小との連携がしやすいようにということと同時に、小学校に対する地域の力を結集したいというような、お心、お考えがおありであったからこそ、そのような体制になったと思うんですね。

それが、残念ながら児童の減少によって、今一校一園にという形の流れの中で、さらにこの流れは決して簡単にはとめられないとは思いますが、ただ人の気持ちはやはりどこかでとめなければいけないと。やはり笹川の位置に統合小学校に、町民の皆さんが全員で希望を持てるような小学校にしなければいけないですし、みんなが支えていく小学校にしなければいけないですし、幼稚園もまた同様だと思えます。

そういった中で、じゃあどのように教育行政に町民の皆さんを、言葉、語弊があって悪い使い方かもしれないけれども、巻き込んでいくのかということ、やはり教育委員会としても考えていかなければいけないですし、そんなところが今課題なのかなというのは私自身考えておりますし、この32年統合に向けてそれに向けて、今から準備をし始めても、もうしているところももちろんありますけれども、やはり今から準備をしていかなければいけないところなんだろうかと、町民の皆さんが統合小学校に深い関心をもって、また同じようにかかわれる環境整備を今の現小学校のところから、これも言葉は悪いですが引きずっていけるようにというのは、雲をつかむような話になっておりますが、すごく重要になってくるんだろうかというふうに考えています。

岩井委員 放課後児童クラブの場所のほうなんですけれども、小学校の敷地内ということは決まっているという話になっているんですけれども、それとは別で笹川のプールのほうが、プールのほうは視察に行ったんですけれども、かなりぼろぼろということで、建てる、建てないは別にして、あのプールに子供たちを入れるのは、ちょっと危険だなと私は思いました。

あとは幼稚園の統合のほうなんですけれども、もう場所も橋だけにしておくのは危ないということで、笹川のところに来るという話なんですけれども、放課後児童クラブも幼稚園も全て笹川に集まってしまうのは、どうなのかなと私は思いますので、町中の人たちが地区は笹川ですけれども、場所があその場所ですと通ってよかったとか、通わせたいとか、そういうふうになるような施設にしてほしいと思います。

岩田町長 ありがとうございます。今、お二方から特別、今のお話ですと、従来の皆さん方の考えには同調するけれども、場所だとかそういうものも町民の方々にある程度理解をしていただくということのご意見だと思います。

先ほどもこの問題の中で1カ所集中という話がありまして、これを分散させるとまた大変なことになる。けれども、笹川のこの場所ということになった場合に、やはりこの場所であることによって、いろいろな面の今度はいい部分の展開ができるということは誰しもわかるんですが、そのあたりの理解を今度求めていくということになってくると、いろんな説明が出てくるのではないのかなと思います。

実は、東城のほうで聞いたんですけれど、実は遠くなるんじゃないのかなという話もありました。しかし、今の遠い近いというのは、かつては遠出とか自転車とかということがあったんですが、子供たちの場合には今ほとんどがスクールバスだったり、園児バスだったりします。ですから最初はなれるまで大変だったと思いますけれども、今のその幼稚園の場合もこのあたりで父兄のほうから問題提起されるんだらうというようなことも考えていたんですが、それがなかったということは、利便性が非常に高くなって安心して送り出せる、あとは車の運行に関してのことをきちっとできれば、従来よりははるかに安心し

て子供を送ることができる、また迎えることができるという部分になっております。時代がそういうふうなものの乗り物を使っての通園であったり通学だったりするわけでありますから、この乗り物そのものが100パーセント大丈夫だということではないんですが、特に注意を払って事故等を起こさないように、十分な安全運行したりということができれば、従来よりは安全だろうと思っています。

それから、通学通園の運行する車のコース等も十分に考慮していかなければならないだろうということも、いろいろ出てくると思います。その辺のことも今後とも十分検討を加えていただければありがたいなと思っています。

先ほど来、冒頭の中で申し上げました、実はこの東庄町に子ども・子育て会議がございまして、その会議のほうから提言ということで、いろいろこう長い文章でありますけれども、いただいたわけでありますけれども、皆さん方の意見を聞いている中で、多分ある程度この中の問題はクリアできるだろうと思っています。その中に子供たちを1カ所に集めることは、すごく大事だということの一行が出てくるんですね。ですから幼稚園でも小学校でも、特に幼児教育、それから児童のことも含めると一貫性があつたほうがいいだろうというような思いがしています。

それから、今後放課後の児童クラブの関係でありますけれども、学習をしたり、また遊びもしたりいろんな面がありますから、それはまたいろんな角度から検討を加えていけばいいんじゃないのかなという思いがいたします。

いずれにしても、これに携わってくれている方たちが大体元先生だったり、そういう方も結構多いようでありますので、その辺は十分お任せしていいんじゃないのかなというふうに思いもいたしていますので、よろしく願い申し上げます。

ほかに、教育長、何かありますか。

五十嵐教育長 今小学校が1カ所に来てしまうということを含めて、さまざまなご意見をいただいたわけなんですけど、私は小学校一つにするに当たって、各小学校ごとに今現在さまざまな地域の人たちとの交流を含めた行事があるわけなんです。

例えば一つ例を挙げますと、お年寄りとの交流ということで、各小学校とのゲートボールを地域のお年寄りとやってみたらいいのかなと。神代小学校であれば昔の遊びということで、これも昔のお年寄りの人に集まっていたいて、昔遊んださまざまなめんこだとかベーゴマだとか、そのような遊びを一緒にやるとか、そのような地域の方との交流もあるわけなんですけれども、そういうようなものは一つ笹川小学校に来て学校行事の中で各地域に戻って、そのような交流ができるようになったらいいなというようなことを考えております。

実際に学校教育の中の行事の中でどのようにするかというのは、現場の先生方のご意見やお知恵をお借りして、やっていかなきゃならないと思うんですが、

そのような残せるものはできるだけ残して、地域との交流を笹川に来てそれぞれ東城、橘、神代、石出とあるわけですので、そういうものを大切にしたい教育ができるようにしていきたいなど。またそのような要望をしていこうかなというふうに考えているところでございます。

ただもう少し、今の各部会ごとでさまざまなことを話し合っているわけなんですけど、もう少し煮詰まった段階で、行事等を計画する段階で、そのような要望を出していきたいなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

岩田町長 いろいろご発言をいただきまして、ありがとうございます。

実は昨日の新聞等を見た方は、大体これからの子育てに関するいろいろなニュースが載っておりましたから、ご存じだと思いますけれども、いわゆる消費税を10パーセントに上げて、そこから出るお金を今度は高齢者対策じゃなくて、子供の対策に充てようという気概があります。保育料それから幼稚園の園料でありますけれども、いわゆる3歳から5歳の子供たちを全員無償化して、それから0歳から1歳、2歳までの子供を低所得者に限って無償化していこうという傾向に今あります。

このような傾向というのは、従来にやはり少子化も含めて、高齢者が急激にふえるということでのその対応、対策に追われてきている。実は同時にスタートさせたエンゼルプランというのは、どこかへと後退してしまったんですね。それを今後は消費税アップと同時にそちらに向けていこうと。ですから、いろんな面で優遇策が出てくるのではないのかなと。

例えば子供たちの子育てにかかわる経費的なものが、いろいろ一連のものがありますけれども、ワクチン的なもの、それから事前に予防接種の関係というのは、世界の中でも日本はおくれております。ですから、町としてもその部分を先駆けてワクチンの関係、それから対応策ということで、県に先駆けてやってきたつもりでありますけれども、それを全国的に見ればおくれていたところもあるということでもあります。

ですから今後子育ての部分、それからまた奨学金にしても、国は支給型に変えていこうという話もしております。

実は、町単独ではございませんけれども、町の奨学金そのものも今十数年前から東洋合成のご支援もあって、支給型・返済なしということでやってきておりました。それとあわせて高校生から使える300万円の融資でありますけれども、これもある程度年齢を区切って、勤めるようになってからの返済で無利子ということで、進めてきたつもりであります。

そういうことを含めていくと、これから子育てにかかわるいろんな費用的なものとか、それを肩がわりするというよりも、子育てにかける国の考え方も大きく変わってきます。そういうことを考えれば町としての対応・対策も、これからしていかなければならない部分はたくさん出てきます。

実際には、もう既にこの町と提携しています、埼玉県滑川町という町があります。これはよく議会で議員さんの質問の中に上がってくる名前なのですが、なぜこの町が注目されたかという、給食費が無償なんですね。幼稚園、小学校、中学校も含めて、給食費は無料であります。

実は県内では、今年から神崎の学校が近隣であります、郡内でもありますけれども、給食費無償であります。そういうことも含めて今スタートしております。ですから、今後東庄町としても、どのような方向でどういう費用が、どういうふうにかかるのか、そういうものを含めてやっぱり検討を加えていきたいなと思っていますところでもあります。

すぐ云々ということではないですが、ご理解いただきながらもう既にそういうことで費用的なものをきちんと捻出ができて対応ができれば、先駆けているんな面で子供たちの教育にかかわる経費の節減といいますか、そういうものをしていきたいなと思います。

これはやはり、いろんなところで出てくることは食育という、教育の「育」でありますけれども、それをうたっていながら裁判沙汰になって、実際には浦安市は裁判をしております。給食費を払わないという家庭をいわゆる訴えたわけなんですけれども、子供たちの給食費云々で、市町側が訴えて裁判沙汰に持っていくまでエスカレートしてくるということは、やはり教育の現場としては、余りよろしくはないんじゃないのかなと私は思います。

そういうことも含めて町がこれから検討を加えながらどういう方法がいいのか、また教育委員会の中でもご検討いただければありがたいなと思っていますところでもあります。

また、私どもは現場を見ておりませんから、皆様方には現場の声もすぐ聞こえてくると思います。子育ての中で何が大変なのか、子供の養育の中でどういうことで父兄の方は困っているのか、そのあたりも十分これから受け身として考えていただいて、前向きに検討していただければありがたいなと思うところでもありますので、ぜひともよろしくお願いを申し上げたいと思います。

これに関して何かもうちょっとあれば。

向後委員 給食の無償化というような、今町長からお話がありました。もしできるのであれば財政とそういうものが許容範囲の中でできるのであれば、ぜひ進めていただきたいなと思っています。

林委員 今お話しいただいたように子育てのところどこが問題なのかと。

今日は特に議題が放課後児童クラブであったり、幼稚園の統合であったりということで、就学前の園児たち、その世代なんだろうなと思います。小学校ぐらいまで上がってくると、ある程度先がこう親御さんも保護者も見えてくるので、ある程度めどが立ってくるんだと思いますけれども、やはり都市部で抱えている問題とかこの町村部で抱えている問題は違う面もあるとは思いますが

が、今幼稚園の就園率がちょっと下がっているという問題は、やっぱり保護者の社会的背景というのは、非常に大きいと思います。

そういった中で、公立幼稚園のことをしっかり考えていかなければ、もちろん必要だということはもちろんですが、保育園がせつかく町内にも三園あるわけですから、こちらとしっかりよく吟味をして、あるいは討論して、よい就園前の子供たちのサポートをどのような形でしていけるのかと、それが行政のかかわり的には、東庄町としては健康福祉課さんなんでしょうけれども、その将来の教育、子供たちの育成ということを考えれば、私自身が教育委員ですけれども、教育委員が主体となって委員会が主体となって、リードしていく体制が必要なんだろうなど、この放課後児童クラブについても同様ですし、この幼稚園の統合についても、公立幼稚園だけを考えるのではなく、保育園との連携も含めてこのところはしっかりよく話をして相談をして、いいところをみんなで持ち寄って、いい子供たちを育てていくというところを一つ目指していきたいなど、私自身も考えている次第です。

以上です。

岩田町長 これはずっと抱えてきている課題であります。というのは町の三園の保育園がありまして、それと幼稚園の関係というのは、もう何年も前から話し合いをきちっと持とうということで、話をしてきてはいたんですが、きちっとした答え、結論を誰も出しておりません。ということは、両方に言い分があったり、先ほども時間の預かる時間帯のことも含めたり、いろんなことも出てきます。どちらがいいのかなというのは、父兄にある程度投げっ放しで、それで検討を加えてきたと。

それから、その時間の延長が非常に短いということで、父兄のほうにとっては共稼ぎしている人たちにすれば、もう1時間ぐらい伸ばしてもらいたいなとか、1時間半伸ばしてもらえればありがたいなというようなことも含めて、選択をさせる。考えてみれば、幼保一体のこども園の関係も含めると、このあたりがやっぱり一番ネックになってきたんだろうと思います。

ですから、このこども園を含めて、文科省と厚労省のしのぎ合いといいますか、それもあって、給食を出せる厚労省側と給食はセンター方式で出す文科省側と、これもやっぱり今複雑にこう入り組んでいる状況であります。ですから、この問題もまだこども園では解決しておりません。

ですから、そういうふうな問題も含めて、やはりこれから子供たちの幼児、そしてまた児童そして中学校までということになってくると、十分協議を重ねていったり、また保育の関係も含めると、保育園の方々とまた教育委員の皆さん方が集まって、協議ができる場所というのは必要になってくるんだろうと思います。まあ必要なんですね。

ですから、できればそういうことも含めて検討したり協議していただければ、両方の話、一方通行ではなくて、合意が生まれることも可能でありますので、ぜひ私のほうからもお願いを申し上げたいと思っています。

必ず方向性は見出せると思っています。ですから、今のままでは平行線をたどりますので、ぜひとも近々にそういう場面を設けていただいて、話し合いをしていただければありがたいなと思います。よろしく願いいたします。

五十嵐教育長 先ほど、町長のほうから就学前の子供たちも含めて、さまざまな場面で町としてこうサポートしていただけるというようなお話をいただきました。

どのように教育をしていったらいいのか、子供たちをですね、それを考えてこれから学校教育をしっかりとお世話していきたいなというふうに考えております。

またちょっと先ほど、幼稚園と保育園の教育と福祉の関係の話がございましたが、私は幼稚園と一緒に勉強するというか、同一、一緒に行動を取るという時間が必ず毎日あるというふうに聞いております。実際に見に行くと、みんなで一緒に紙を切ったり、追いかけてこしたりと、あるルールに基づいてやっているというのが幼稚園かなど。保育園のほうはどのような感覚かというと、遊びを通して学ぶというのは同じなんですけれども、みんな一斉にじゃなくてそれぞれやりたいことをやって、その中で人間関係とかを学んでいくというようなものが保育園だと。

もうちょっと言うならば、片方は教育委員会、幼稚園は文科省なので、やっぱり教育、指導するというのが、やっぱり入ってきます。保育園は福祉ということなので、預かるということが基本になります。そこで若干変わってくるのかなというふうに思います。

それと保育園は2号認定というか、うちで子供の面倒を見られないという子供たちが基本的に入るところでございます。幼稚園は2号認定の子供ではない子供たちが通うというようなところでありますが、やはり家庭においても必要な保育を受けることが困難だという子供も幼稚園で受け入れるようにして、親としたら自分の子供は幼稚園の教育をさせたいのか、保育園の教育をさせたいのか、それを選択してどちらでも行けるような形を取ればなというふうにも思っておりますので、その辺のところを含めて、ちょっとこれからは検討していきたいなというふうに思います。

ですから先ほどの繰り返しになりますけれども、町長のほうから就学前の子育てについてのサポートを町として、これまで以上にしていただけるということでもありますので、先ほど言ったところを含めて、どのような東庄町の子供たちを、どのような教育ができる、あるいは親が選択できて、子供をどこに預けたらいいのかというのが選べるような、そんな形を取れるようにしていきたいなと、いければなというふうに考えております。

よろしく願いいたします。以上です。

岩田町長 いろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございました。

非常にやはりこの問題は難しい部分もあります。しかしながら、どこかには突破口があるはずでありますので、やっぱり話し合うということが一番大変なことなんでしょうと思います。ですから、やりづらいたとかちょっと面倒だなということではなくて、どこかにそういう機会をつくっていただいて、ぜひともいろんな問題の解決のために協議をいただければありがたいなと思いますので、今後ともよろしく願いを申し上げたいと思います。

いろいろ申し上げてきました子育ての関係というのは、いつになってもいろんな問題が生じてきたり、それをやはり大人が十分協議をしながら解決をしていくということが肝要だと思います。自分たちで解決ができないわけありますから、それを見守る人たちがよほど十分に配慮して、子供たちが周りの人たちのおかげも含めて育つんだという一つの町づくりの基本にもなると私は思っていますので、そういう意味においては、今後ともよろしく願いを申し上げたいと思います。

今日の教育会議でありますけれども、いろんな面でご発言を賜りまして、まことにありがとうございました。

今後とも幼稚園、保育園に限らず、小学校の関連の問題、そして中学校も今やっぱり教育の場面では大事なセクションでありますので、町の教育全体のことを考えていただいて、よりよい方向へ進んでまいりたいと考えておりますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。

平成32年度の小学校統合にあわせて、一つに統合する方向できておりますけれども、本日皆様方から統合に向け、さまざまな課題、そしてその統合前の幼稚園保育園の問題、そしてそれよりも前の0歳からも含めた子供たちの問題を含めて、私は義務教育までの考え方というのは、国はやはり大きな責任を持つべきだろうと思っています。できることはやはり国の力の中で、先ほども申し上げました今後そういう対応・対策にかけていくという国の姿勢があるわけありますので、ぜひとも義務教育までは国も地方も市町村も全力を挙げて子育てを考えていくと、そういうような方向でこの町も進んでまいりたいと考えておりますので、どうかよろしく願いを申し上げたいと思います。

今日の会議でありますけれども、これもまた町としても十分に捉えまして、検討を加えてまいりたいと考えておりますので、どうかよろしく願いを申し上げたいと思います。

それでは有意義な意見交換となりました。これで平成29年度の第1回東庄町総合教育会議、閉会をいたします。

ご苦労さまでございました。

(午後 2時 35分 閉会)